

一般社団法人日本粘土学会 2025 年度第 2 回常務委員会議事録

日 時：2025 年 1 月 25 日（土）13:00～14:00

会 場：国際文献社アカデミーセンター4 階会議室および WEB 会議室

常務委員（17 名）：佐藤努、笹井亮、鈴木正哉、中戸晃之、横山信吾、岡田友彦、渡邊雄二郎
森本和也、佐久間博、伊藤健一、亀島欣一、小口千明、井上紗綾子、
手束聡子

監事（1 名）：高木哲一

委任状（2 名）：地下まゆみ、志々目正高

事務局：川島朝子

成立確認：常務委員総数 17 名の過半数 9 名 出席常務委員 17 名で常務委員会の開催は成立

審議事項

1. 2024 年度事業中間報告（資料 1）

各担当委員より資料をもとに説明があった粘土科学横山編集委員長より、第 63 巻 2,3 号を発行し、現在、論文 1 編を審査中との報告があった。Clay Science 岡田編集委員長より、第 28 巻 3-4 号の合冊版を発行し、現在、論文 1 編を受理との報告があった。鈴木討論会実行委員長および渡邊シンポジウム企画委員より、第 68 回粘土科学討論会の準備状況について説明があった。森本参考粘土試料委員長より、申込件数 6 件、海外から 1 件との報告があった。佐久間広報委員より、随時 X での基礎講座や Q&A の活用の宣伝を進めているとの報告があった。笹井常務委員長より、2024 年 9 月に学会賞等の表彰式を行ったとの報告があった。また、現在、3 つの研究グループに研究促進の援助を実施しているとの報告があった。小口庶務委員より、JpGU2025 学協会会長会議に佐藤会長が出席したことが報告された。井上庶務委員より、会員動向の報告があり、会費未納者で知り合いがいたら声がけをお願いしたいとの要請があった。

2. 2025 年度会計中間報告書（12 月）（資料 2）

伊藤会計委員より資料をもとに報告があった。Web 化しているため、冊子の収入は減少しているとの説明があった。

3. 粘土科学討論会

(1) 第 67 回粘土科学討論会会計報告（資料 3）

中戸実行委員長より資料をもとに報告があった。大学で開催したため会場費の負担がなく、地方自治体から補助金がでたため、運営費を抑えることができたとの報告があった。

(2) 第 68 回粘土科学討論会実施計画(資料 4)

鈴木実行委員長より資料をもとに報告があった。会場の都合上、受付は 9 時開始、口頭発表は 9 時半開始になること、懇親会は会場でのケータリングの可能性も含め現在検討していること、見学会は筑波駅集合を予定していることが報告された。

4. 日本粘土学会賞等受賞候補者推薦書・学術振興賞の書式変更について（資料 5）

2025 年度より、推薦書の業績欄に「粘土科学および Clay Science に掲載された論文」を記載する欄を設けることが提案され、承認された。また、今後、日本粘土学会が提供する申請書類などの書式は年号から西暦標記に統一することが提案され、承認された。

[ここに入力]

5. 著作権管理委託申込書(AI 利用) 切替について (資料 6)

粘土科学横山編集委員長および Clay Science 岡田編集委員長より、各委員会で審議した結果、著作権管理委託 (AI 利用) の追加および委託申込方法の変更について了承されたとの報告があり、承認された。

6. その他

特になし

報告事項

1. Clayteam との連携について

佐藤会長より、Clayteam が一般社団法人となるに当たり、粘土学会との連携に向けた話し合いを進めていく旨の報告があった。これに関連して、渡邊企画委員長より、次回のシンポジウム企画において、Clayteam から講演を行う計画を蛸名会員と相談の上進めているとの報告があった。

2. その他

佐藤会長より、Asian Clay が札幌で 2028 年 6 月初旬に開催予定との報告があった。また、ICC は 2027 年スペイン開催から CLAY と名称が変更され、今後、2 年ごとにヨーロッパとそれ以外で開催することが報告された。ICC や Euroclay への日本からの参加者が多いことから、AIPEA より、近い将来の日本での CLAY の開催を求められている。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、常務委員長及び監事がこれに記名押印する。

2025 年 1 月 25 日

一般社団法人日本粘土学会 常務委員会

常務委員長 笹井 亮 ㊞

監 事 志々目 正高 ㊞

監 事 高 木 哲 一 ㊞

[ここに入力]